

F-22 家庭経営の変動に関する生活史的研究(M) 一福島県郡山市湖南町調査を例として— 衣生活(ノ) 衣生活の変容 県立会津短大 松浦悠紀子
県立米沢短大。徳永幾久 福島大教育 栗原澄子 外5名

目的 衣生活の変容実態の究明を通じて、家庭経営の変動要因を解明する。即ち、農家の各世代の主婦が一家の生産及び消費の両面に中心にかかわりあいをもちつつ、着装や運営管理をどのように行ったか、そしてそれが社会の変動とどのように対応してきたか、その変容の契機がどこにあるかを調査し、法則性を見出そうとするものである。

方法 資料は郡山市湖南地区の40才～70才代までの農家主婦143名からアンケートで得た回答内容と、そのうちから事例的に三代家族に面接聴取及び残存資料の提示を受け、それらを整理した。主な項目は小学校時代及び娘時代の着装：洋装衣類の移入時期とその動機などである。

結果 1) 小学校時代の服装については70～40才迄外見上の着装の変化は少いが、内服衣類の下ばきの変化は大きい。2) 娘時代の服装は小学校時代と上下共材質も形も異り下着には年齢差がみられる。3) 洋装衣類は着装期に年代差があり、40才代は上着下着は同時に着装し、他年代は普段の実用的洋品は季節の関係か外装より早く使用し服装用下着は着用しないものが多く、スラックス、スーツ、ストッキング、スリッパは着用緩慢である。全般的洋装化は40才代はS19～20、50才以上はS30～40に集中していた。4) 変化の契機は、パーマについては40～50才はS23～30に、60才以上はS40にすべて普及したが、寺は便利さからが多いがその他は部落の人たちと同じでありたいという部落社会や、流行に対する参加の安定感を示したものが多い。